

# 〈準ずる教育〉小・中学校（学部）部会

## 研究主題

「学習指導要領の『基準性』を踏まえた『補充的な学習』『発展的な学習』など個に応じた指導方法の開発」

## 研究の概要

〈準ずる教育〉においては、児童・生徒が、確実に学習指導要領に示された内容を身に付けるため、評価規準に照らして、達成度を常に評価しながら、補充的な学習や発展的な学習を取り入れていくことが大切である。また、盲・ろう・養護学校には、〈準ずる教育〉の教育課程で下学年の内容を学習する児童・生徒も多くなってきている。そうした児童・生徒が、当該学年の内容にできるだけ到達できるような指導も必要である。本研究では、当該学年対応、下学年適用それぞれの児童・生徒の指導の在り方や指導上の工夫を整理し、授業研究に基づき、補充的な学習や発展的な学習など個に応じた指導方法の研究開発を行った。

### I 研究の目的

平成15年12月の学習指導要領の一部改正により、学習指導要領の内容は、すべての児童・生徒に対して指導する内容や程度を示したものであることがより一層明確に示された。盲・ろう・養護学校の〈準ずる教育〉の教育課程においては、指導と評価をきめ細かく行い、小・中学校の学習指導要領に示す内容の定着を図っていく必要がある。その際、学習指導要領に示す目標に照らして、実現状況を見たとき、それが十分ではないと判断される児童・生徒については、補充的な学習を取り入れ、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る指導が必要となる。

また、実現状況が十分であると判断される児童・生徒については、学習指導要領に示されていない内容を加えるなど、発展的な学習を取り入れることが可能となった。

盲・ろう・養護学校の各教科等の指導に当たっては、従来から、個別指導計画に基づく指導など個に応じた指導の充実が図られてきたが、盲・ろう・養護学校や通級指導学級の児童・生徒の障害特性による学習の困難さや、学習進度の相違等への指導方法は、まだ十分に研究されていない。

昨年度の研究においては、障害の状態に配慮した評価規準を加えることや、障害の特性や学習進度の差がある児童・生徒には、評価・評定を行う際、複数の学年の評価規準を照らし合わせることなどの、学習の状況に対応した指導と評価の重要性が明らかになった。

そこで、本研究では、上記の課題を踏まえ、児童・生徒の確かな学力の育成を図るため、教師一人一人が自らの授業を改善し、個に応じた指導の一層の充実を図るための手だてとしての、補充的な学習、発展的な学習の指導方法に関する実践的な研究開発を行う。

### II 研究の方法

盲・ろう・養護学校においては、当該学年の内容を学習している児童・生徒の他、下学年適用の学習を行っている児童・生徒も多く存在する。下学年適用の児童・生徒については、下学年の評価規準を用いることになる。そのような学習グループは、当該学年の指導内容へ

少しずつでも近づけていくことを、常に念頭においた指導を進めていく必要がある。そこで、補足的な学習と発展的な学習の実施の考え方を、以下のように区別して整理した。

## 1 当該学年の内容を学習している場合

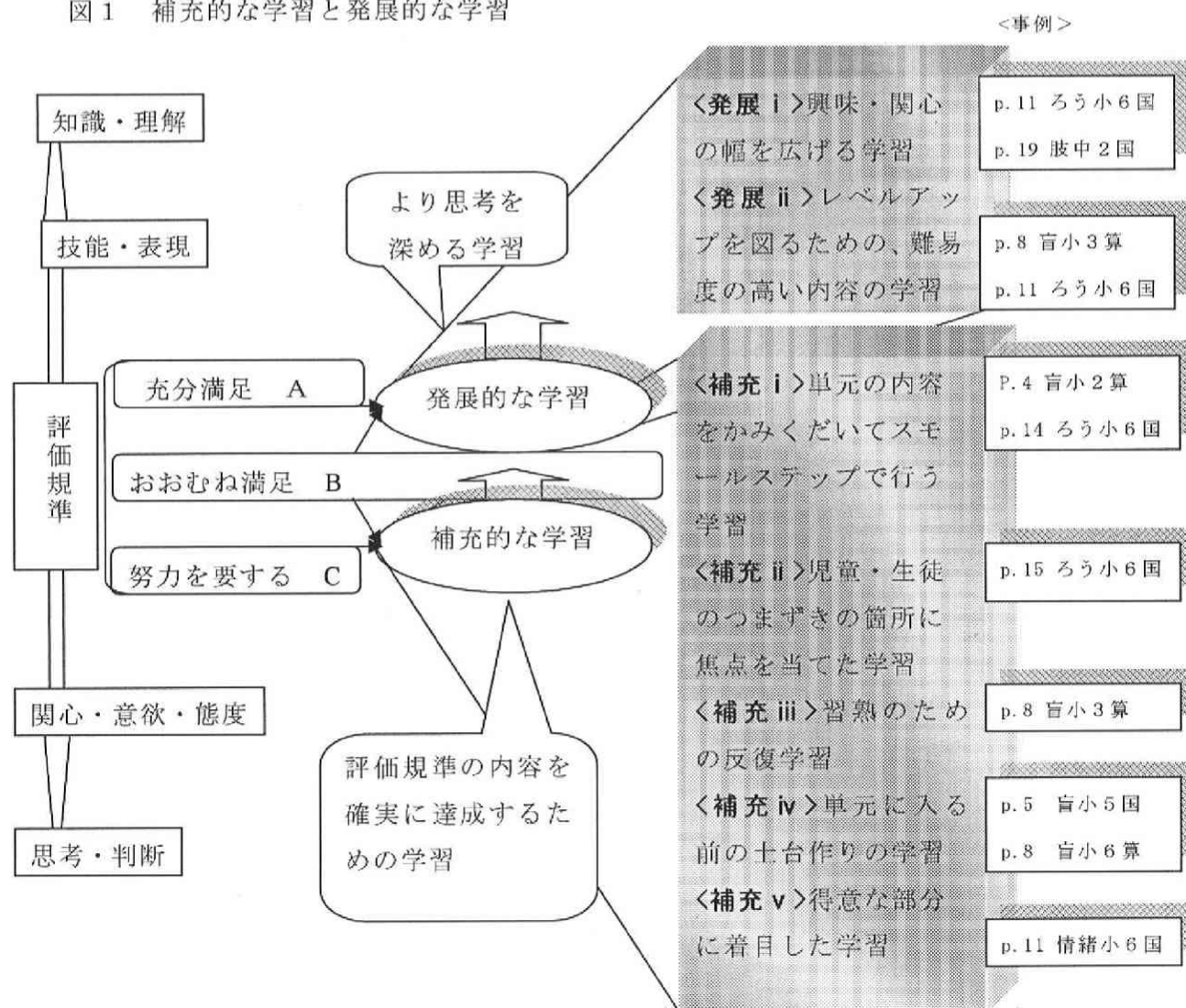
### (1) 補足的な学習

補足的な学習は、評価規準に達しない（評価 C）の児童・生徒に、ねらいとする評価規準を達成できるように指導したり、おおむね達成している（評価 B）の児童・生徒に、習熟を深めたりする学習である。内容は、〈補充 i〉として、単元の内容をかみくだいてスモールステップで行う学習、〈補充 ii〉として、児童・生徒のつまずきの箇所に焦点を当てた学習、〈補充 iii〉として、習熟のためのドリル的な学習、〈補充 iv〉として、単元に入る前の土台作りの学習、〈補充 v〉として、更に得意な部分を伸ばす学習などがあげられる。

### (2) 発展的な学習

発展的な学習は、単元の目標を達成した（評価 A または B）上に成り立つもので、より思考を深めるためのものである。内容は、〈発展 i〉として、興味・関心の幅を広げる学習、〈発展 ii〉として、さらに、レベルアップを図るために、難易度の高い内容の学習が考えられる。

図1 補足的な学習と発展的な学習



## 2 下学年の内容を学習している場合

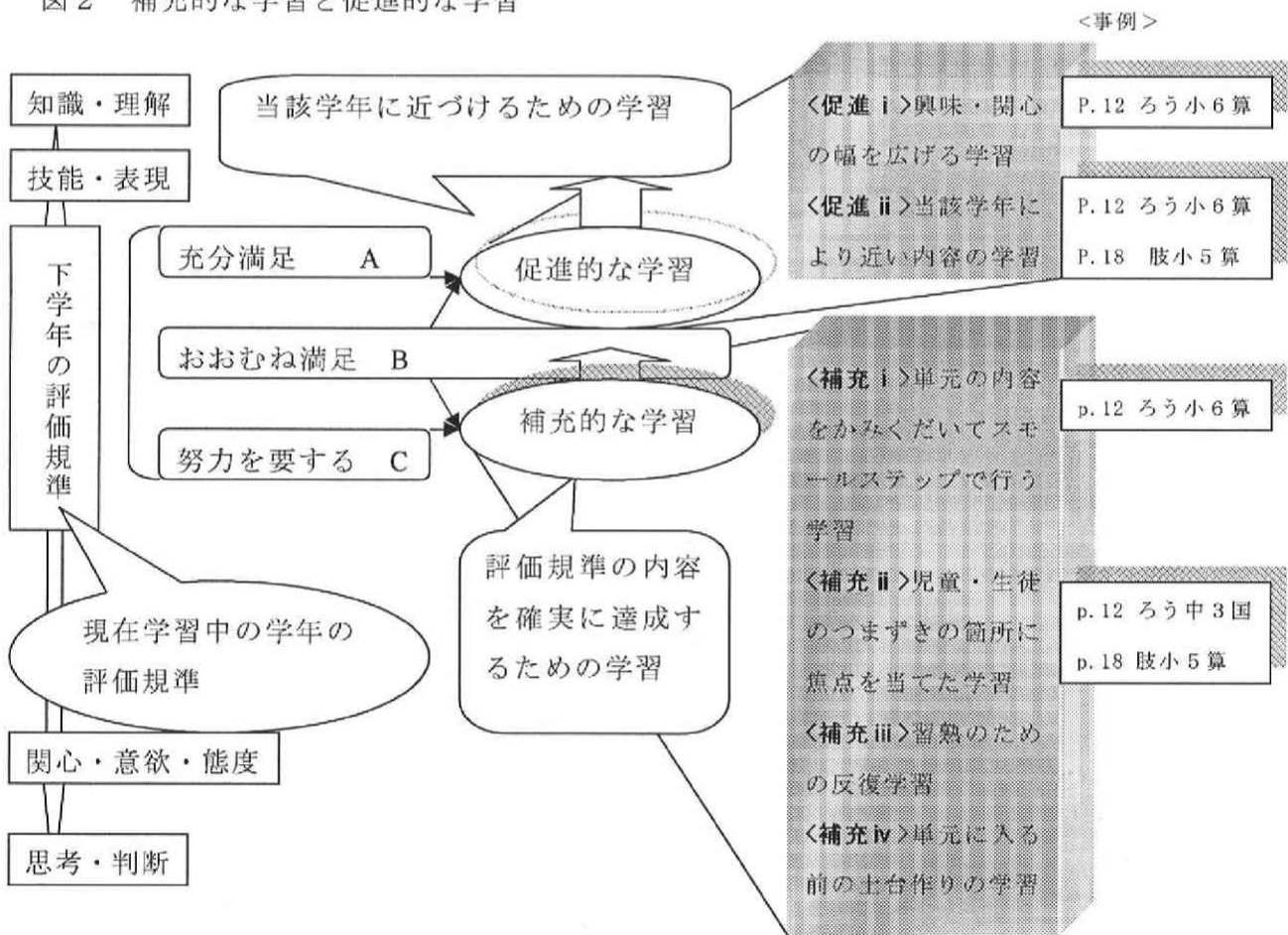
### (1) 補充的な学習

下学年適用において、ねらいとする評価規準に引き上げる学習は、前述の当該学年の評価規準を適用する学習と同様、「補充的な学習」とした。

### (2) 下学年適用の際、当該学年に近付けるための学習ー「促進的な学習」

下学年（下学部）適用の児童・生徒は、現在学習している学年の評価規準（下学年の評価規準）を適用し、学習を進めていくが、その評価規準のAまたはBに達している児童・生徒に対しては、より当該学年に近付けるための学習が必要となる。この視点は、下学年適用独特であるとともに必要不可欠なものであり、当該学年の評価規準を適用して学習する場合の発展的な学習とは区別する必要がある。そこで本研究ではこのような発展的な学習を、下学年適用の児童・生徒の学力の伸長という視点から特に「促進的な学習」と呼ぶこととした。促進的な学習は、〈促進 i〉として、当該学年の発展的な学習同様、興味・関心の幅を広げる学習、〈促進 ii〉として、当該学年に近付けるための学習を考えた。

図2 補充的な学習と促進的な学習



本研究では、以上のような考え方にに基づき、各障害種別の指導の事例及び授業研究を通して、補充的な学習・発展的な学習、及び下学年適用における促進的な学習の有効性を検証する。

### Ⅲ 障害種別ごとの補充的な学習と発展的な学習の指導方法の開発

#### 1 盲学校

##### (1) 障害に起因する学習課題

視覚障害のある児童・生徒は、視覚からの情報や、実体験が不足しがちであるため、盲学校では、具体的な事物・事象や動作と言葉を結びつけて、的確な概念の形成を図る指導や児童・生徒の視覚障害の状態等に応じて、点字や普通の文字の読み書きの系統的な指導を行うことが大切となる。さらに、個々の児童・生徒に合わせた触覚教材や拡大教材の工夫を常に図りながら、限られた時数の中で効果的な指導を行うことが必要である。本部会では、盲学校の教科指導の課題について協議し、次のことを挙げた。

国語：点字を常用することが適切な場合は、触覚による読字（触読）の指導を入門期から系統的に進め、教材の提示の仕方にも工夫を加え、児童・生徒の興味・関心を高めながら指導していく必要がある。また、普通の文字を常用することが適切な場合は、漢字や漢語の意味や書き取りについて、十分に指導を行っていく必要がある。児童・生徒の起因疾患、発生の時期、視覚によるイメージの有無などを踏まえて、以下の指導事例のように、補充的な学習と発展的な学習を効果的に取り入れていくことが有効であると考えた。

- 単元名 「一秒が一年をこわす」（小学部5年：学年対応）
- 評価規準及び補充的な学習・発展的な学習の内容

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
地球環境や身近な環境の問題に関心を持ち、自分たちの課題について意欲的に考えたり話し合ったりしようとしている。	調べたことを基に、話の組み立てを工夫し、資料を活用しながら発表している。	自分の課題を解決するために、必要な情報を集め、点字や普通の文字でまとめている。	地球環境について、考えながら文章を読み、要旨をとらえ、自分自身の課題をもっている。	本文を読み取る際、事実と、筆者の意見が分けて書かれていることを理解している。

**補充iv** 単元の導入の際、石油のでき方について、太古の生物からなる堆積物のイメージ図や、点字による説明資料を提示する。また、年表を視覚教材・触覚教材として用意し、人類が誕生してから時間の短さを実感できるようにし、児童の興味・関心を高め、学習の土台とする。

**補充i** 環境について調べる際、「便利な生活」と「エネルギーの消費」の関係に絞って、自分の生活と関連付けて考えるようにする。また、書きたいことをお互いに口頭で伝え合い、「事実」と「自分の考え」をまとめた上で、点字や普通の文字（漢字）を使い、正確に、丁寧に書き表すようにする。

**発展i** 教材文をさらに深く理解するために必要と思われる様々な題材について、下記のような関連図書を音読テープ教材として用意し、家庭学習の課題とする。  
「地球の歴史」「人類の歴史」「地球について（海、砂漠など）」「空気（二酸化炭素と酸素）について」

- 単元名 物語「親友」（中学部1年：学年対応）
- 発展的な学習の内容

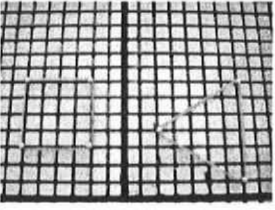
**発展i** 教科書の教材文の出典である「ト短調の子守歌」（文庫本で約350頁）を朝の読書タイムの課題として取り上げ、拡大本、点字版、音読テープを用意し、生徒に選択させ、部分ごとに意見を交換しながら読み取りをすすめる。定期考査の試験問題としても取り上げる。

算数：児童・生徒の実態に応じて、適切な教材・教具を使用し、具体的操作を取り入れながら、概念の形成や、原理の発見ができるようにし、次の指導事例のように、児童・生徒の学習内容の理解度を常に評価しながら、必要に応じて、確実に概念を形成する補充的な学習や、概念の幅を広げる発展的な学習を取り入れ、理解を促したり、興味・関心や思考の幅を広げたりすることが有効であると考えた。

- 単元名 「三角形と四角形」(小学部2年：学年対応)
- 評価規準及び補充的な学習・発展的な学習の内容

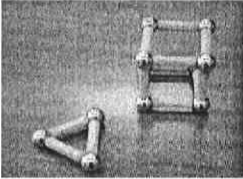
算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
簡単な形をとらえ、身の回りの物のなかから三角形、四角形をすすんでみつけようとしている。	面図形と、辺で構成された図形を同じ図形としてとらえている。	身の回りの物をよく触り、形を把握し基本図形で構成し、表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本図形の辺や角、面などの特徴をとらえている。</li> <li>・物の形は三角形や四角形や基本図形の組み合わせでできていることを理解している。</li> </ul>

**補充 i** 頂点と辺の学習の際、グラフ板を使用し、具体的操作を十分行ったり、方眼紙で図形を作ったりする操作活動を行う。



〈グラフ板〉線の部分が溝になっており、交点にピンを差し、輪ゴムで頂点を囲い、辺を表す触覚教材。

**発展 i** 立体図形のイメージの構成。鉄球と磁石の棒を用い、立方体や正四面体など様々な立体図形を作り、興味・関心や思考の幅を広げる。



以上の指導事例をもとにして、さらに、算数の研究授業を行い、除法の単元の中に、導入期の土台作りの学習〈補充iv〉、つまずきやすい箇所に焦点を当てた学習〈補充ii〉、習熟のための反復的学習〈補充iii〉、レベルアップを図るための難易度の高い内容の学習〈発展ii〉を取り入れて、補充的な学習や発展的な学習の有効性の検証を行った。

(2) 研究授業による検証

**盲学校 小学部3年 算数(学年対応)**

1 単元名 「新しい計算を考えよう」点字教科書3-1 (13時間)

2 単元設定の理由

対象児童は第3学年に在籍している。視覚障害のある児童は、活動の範囲や内容が限定されがちであり、遊びや友達関係の中で培われる数や量、図形に対する実体験に基づいた感覚が育ちにくい。今回学習する除法に関しても、「分ける」ことや「同じ数ずつに分ける」ことについて、児童が意識的に触る活動を多く取り入れることによって理解を促す必要があると考えた。また、四則演算では、盲学校の点字を常用する児童については、計算の速さと正確さの点から、筆算に代わる計算法として、珠

算の学習が小学部2学年から取り入れられており、対象児童2名は、これまで、そろばんを使い3位数同士の加減の計算、乗法の計算や乗法九九の表を利用した計算などを学習してきた。本単元では、それらの学習を踏まえ、除法の学習を行う。

#### 補充的な学習と発展的な学習内容の必要性

視覚に障害のある児童・生徒は、最初にじっくり時間をかけて触察などを行い、自分自身の中にイメージを構築できると、そのイメージを元に、自分なりの見通しをもって学習が進められるという特性がある。従って、単元の導入部分で補充的な学習内容を盛り込み、一人一人の児童がイメージをもてるようにし、習熟を図るための反復的な学習を行い、その後の学習ではそのイメージがより膨らむよう発展的な学習内容を用意する必要がある。

そこで、本単元では導入の部分において、児童の「分ける」経験を元にして学習への興味・関心を高めるため、具体物を操作して、「分ける」ことや「同じ数ずつ分ける」という除法の基本を自分のイメージとして構築できるように配慮をする必要があると考え、補充的な学習として「分ける」体験を1時間設定した。その上で、等分除（一人分を求める。）、包含除（何人に分けられるか。）について具体的操作から出発し、点字表記による式の表し方や、乗法九九による答えの求め方、珠算による習熟を図っていく。さらに、単元の最後に、2位数、3位数の除法について、磁石が10個入った箱を一つと見て計算することで、大きな数についての除法も、これまでに学習した方法と同じ方法で答えを見つけることができることに気付かせたい。

### 3 児童の実態

児童	算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形につ いての表現・処理	数量や図形につ いての知識・理解
A 小学3年 視力略 点字使用	計算など方法がはっきりとした学習には積極的に参加する。	乗法の性質を理解し、被乗数や乗数が0や10の場合の計算の仕方を考えることができる。	点字を使い加法・減法・乗法の表記ができる。盲人用そろばんを使い3位数同士の加減法までほぼできる。	位に関しては少し曖昧な理解であるが、ほぼ身につけている。乗法の性質に関しては理解している。
B 小学3年 視力略 点字使用	学習に対して関心をもち、積極的に取り組む。	乗法の性質を理解し被乗数や乗数が0や10の場合の計算の仕方を考えることができる。	点字を使い加法・減法・乗法の表記ができる。また、盲人用そろばんを使い3位数同士の加減法までほぼできる。	乗法九九がまだしっかりと身についていない。乗法の性質に関しては理解している。

### 4 単元の目標

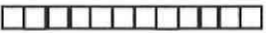
- ・一人分の数や、何人に分けられるかを工夫して求めることができる。
- ・除法の式や答えを点字表記により記述することができる。

## 5 単元の観点別評価規準

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 表現・処理	数量や図形についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を使って分ける作業を進んで行うとしている。</li> <li>・身の回りから除法で表される事象を進んでさがしたり、数量の関係を除法の式に表そうとしていたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等分除は、一人分はいくつか、という考え方であることに気が付いている。</li> <li>・包含除は、何人分になるか、という考え方であることに気が付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・除法が用いられる場合(等分除・包含除)を、点字表記を使い式で表すことができている。</li> <li>・乗法九九を用いて答えを求めることができている。</li> <li>・数量の関係を点字で除法の式に表そうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・除法が用いられる場合(等分除・包含除)、及び除法の答えは乗法九九を用いて求められることを理解している。</li> </ul>

## 6 指導と評価の計画

時	学習活動	支援の方法	評価規準と評価の方法
1	<p><b>補充的な学習〈補充iv〉</b></p> <p><b>①具体物を使って</b> 児童の興味のある物を使い、与えられた個数を等しく二つに分ける。</p> <p><b>②シールなど固定されるものを使って</b> (ア)シールを使い、2カ所に貼り分けていくことで2つに等しく分ける。 (イ)既に貼ってあるシールに触れながら二つに等しく分けるとどうなるかを具体的操作をせずに想像しながら答える。</p> <p><b>③数のみによる提示</b> 点字表記のみを手がかりにして分ける。</p>	<p>いろいろなものを実際に分けてみよう</p> <p>具体物をいくつかに分ける作業をするため、児童の興味のある物(あめ、磁石を用意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何を分けるのか、どこに分けるのか等の説明を、触りながら確認するようにする。</li> <li>・抽象物(今回は直方体の磁石)を用いる。</li> <li>・台紙にステンレスボードを貼ったものを用意し、分ける場所を固定し、児童の空間認知を助ける。</li> </ul> <p>台紙にシールを貼り、それを指先で数え、確認しながら分けるようにする。</p> <p>(ア)シールそのものを貼り分けられるように①で使ったボードの上に台紙を固定して貼る。2枚の台紙の上に同じ数ずつシールを貼るためにはどうしたらいいかを確認してから作業に入るようにする。</p> <p>(イ)シールを予め台紙に貼っておき、分ける数の確認ができるようにしておく。</p> <p>点字表記で数を記入したカードを示す。</p>	<p>「分ける」操作に関心をもって積極的に行っている。 (算数への関心・意欲・態度)</p> <p>観察により評価</p> <p>磁石を等しく分ける方法を考えられている。(数学的な考え方)</p> <p>磁石の分け方により評価</p> <p>二つに等しく分ける作業を、どのように行ったかを説明できている。 (数量や図形についての知識・理解)</p> <p>友達や教師への説明により評価</p> <p>シールを手がかりにして考え、分けることができている。 (数学的な考え方)</p> <p>児童の回答により評価</p> <p>数のみの提示から、分けることができている。 (数量や図形についての表現・処理)</p> <p>児童の回答により評価</p>

2 8	補足的な学習 〈補充 iii〉 授業の 始めの 10分間、 いろいろ	・「何個ずつ分けられるか」「何人分に分けられるか」考えてみよう (等分除と包含除)	○1人分の個数の求め方を考え、式の表し方を知る。 ○何人分に分けられるかの求め方、式の表し方を知る。 ○珠算の方法を知る。	等分除や包含除の答えは乘法九九を使って見つけられることに気付いている。 (数学的思考方) 児童の回答により評価
補足的な学習〈補充 ii〉割り算の意味を確実に知ろう。 乘法九九の「かけられる数」を□で表した式と「かける数」を□で表した式の対比から、等分除と包含除の違いが理解できるように、磁石とステンレスボード(人数分)を使いながら説明する。 □個×3人分=12個、4個×□人分=12				
9	な計算(既習の加法・減法・乗法)をそろばん	・0を分けたり、ある数を同じ数で割ったりするとどうなるだろう。	○4個のあめを4人で分ける操作をしたり、1個もない場合4人で分けるとどうなるかを考えたりする。 	$a \div a = 1, 0 \div a = 0, a \div 1 = a$ などの式の意味を理解し、説明できている。 (数学的思考方) 友達への説明により評価
10	を使って計算してみよう。	・何倍かを求める場合にも割り算が使えるか確かめてみよう。	 ○12個は3個の何倍かについてはめ板で考える。	何倍かを求める場合も除法が使える、包含除と同様の考え方であることに気が付いている。(数学的思考方) 教材の操作により評価
11 12	補足的な学習〈補充 iii〉習ったことを確実に身に付けよう。 「何個ずつワークシート」、「何人分ワークシート」、「いろいろな文章問題ワークシート」とそれに対応した半具体物を用いた教材で習熟を図る。			
13	発展的な学習〈発展 ii〉2位数、3位数÷1位数の計算の仕方を考えよう。 10個のタイルをテープでひと固まりにまとめたものを1個とみなした教材を使って、「何個ずつ分けられるか」「何人分に分けられるか」の問題に取り組む。 式で表すとき、0を取って計算すればよいことに気付く。			

## 7 本時の指導(1/13時間)(別紙P. 9, 10)

### (3) まとめ

盲学校の児童・生徒の指導に当たって、経験不足を補い、学習意欲を高めるために、単元の始めに、触覚教材などを工夫し、具体的操作を十分に行うことで、単元全体の学習に意欲的に取り組むことができた。また、単元の学習過程では、習熟のための反復練習の時間を帯状に設けたり、学習の達成度を的確に把握し、つまずきの箇所に応じて的確に支援することで、計算能力の向上や、除法についての概念形成が確実に図られた。それらを土台に、より難易度の高い学習にも取り組むことができた。このように、効果的に補足的な学習や発展的な学習を取り入れるためには、単元の指導と評価の計画の適切な活用とともに、授業後の評価をきめ細かく行い、児童・生徒の学習の達成度を把握しながら、次の課題の指導を進めるように努めることが大切である。

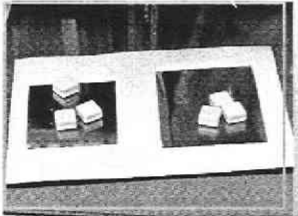


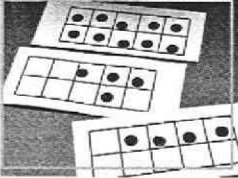
7 本時の指導(1/13時間)

- (1) 本時のねらい ○ 等しく分けることを積極的に行う。  
 ○ 磁石やシールを使い、与えられた数を等しく2つに分けることができる。  
 ○ 等しく分ける場合は、割り算を使うことを知り、点字の式で表すことができる。
- (2) 個別目標  
 A児 ・ 等しく分ける課題を正確に最後までやり通すことができる。  
 ・ 割り算の式を点字で表し、読むことができる。  
 B児 ・ 正確に等しく分ける方法を自ら考えることができる。  
 ・ 割り算の式を点字で表すことができ、提示された式に対して答えを言うことができる。

(3) 本時の展開

(教師の評価 よくできた:A できた:B 工夫を要する:C) (児童の評価: 十分満足:A おおむね満足:B 努力を要する:C)

	学習内容	教師の支援	個別の学習目標・評価	
			A児	B児
導入 3分	<p>補充的な学習(補充iv)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今日の予定を伝える。</li> <li>あめが4個あるとき、2人で分けるとどうなるかについて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すぐに答えが出ない場合は、実際にあめを使って考えるように促す。</li> <li>同じ数ずつ分けることを伝える。<input type="checkbox"/></li> </ul>	<p>算数への関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分から進んで発言しようとする。<input type="checkbox"/></li> </ul> <p>※この□は評価を記入するためのものである。</p>	
展開 27分	<ul style="list-style-type: none"> <li>「12個の磁石を2人で同じ数ずつ分けてみよう。」</li> </ul>  <p>台紙にステンレスポード貼ったもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材を机の上に固定し、児童の空間認知を助ける。</li> <li>磁石を触り、確認するようにする。</li> <li>A児に関しては途中の言葉かけや作業の進行の確認を細かく行う。</li> <li>B児に関しては最初に見通しがもてるよう作業を促す。</li> <li>作業の流れを説明した後、できるだけ自分一人ですることができるようにする。<input type="checkbox"/></li> </ul>	<p>数学的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>磁石を等しく分けるには、どのようにすればよいか考えている。<input type="checkbox"/></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正確かつ効率的に等しく分けるにはどのようにすればよいか考えている。<input type="checkbox"/></li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「14個の磁石を2人で同じ数ずつ分けてみよう。」</li> <li>「16個の磁石を2人で同じ数ずつ分けてみよう。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A児が集中できない場合は言葉かけをして作業を促す。</li> <li>B児には、最後まで自分でやりきるように励ます。<input type="checkbox"/></li> </ul>	<p>数量や図形についての表現・処理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた数の磁石を等しく2つに分けることができる。<input type="checkbox"/></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で考えた方法で積極的に課題を解決している。<input type="checkbox"/></li> </ul>

<p>・「12枚のシールを2つの枠付きの台紙に貼りながら、同じ数ずつ分けてみよう。」</p> <p>・お互いに意見を言う。</p>  <p>枠は立体コピーで盛り上がっている</p>	<p>○台紙とシールを配り、それぞれに触って確認するようにする。</p> <p>○貼りなおすことができないので、どのようにすれば等しく分けられるか考えるように言う。 <input type="checkbox"/></p> <p>〔予想される解答〕 「シールを一枚ずつ交互に貼る。」 「枠は左上端から順に使う。」</p>	<p><b>数学的考え方</b></p> <p>・1枚ずつ交互に貼れば正確にできることに気が付いている。 <input type="checkbox"/></p>	<p>・枠の使い方を左上端から順に使うことでより正確に貼ることができることに気が付いている。 <input type="checkbox"/></p>
<p>・「14枚のシールを2枚の台紙に貼りながら、同じ数ずつ分けてみよう。」</p>	<p>○14枚あることを自分で数えるように指示する。枠の置き方、使い方なども最初は自分で考えるように伝える。 <input type="checkbox"/></p>	<p><b>算数への関心・意欲・態度</b></p> <p>・枠の左上端から使うことを知り、自ら取り入れようとしている。 <input type="checkbox"/></p>	<p>・2つの枠を横にして並べて置く等、机上の使い方にも工夫をしている。 <input type="checkbox"/></p>
<p>・「10枚のシールを貼った台紙を使って、同じ数ずつ2つに分けるといくつずつになるか考えてみよう。」</p> <p>・6枚、12枚のシールを貼った台紙を使う。</p>	<p>○10枚のシールを予め枠に貼った台紙を配り、シールの枚数を数え、同じ数ずつ2つに分けるとどうなるか考えるよう指示する。</p> <p>○できるだけ児童同士の意見を出すようにする。 <input type="checkbox"/></p>	<p><b>数学的考え方</b></p> <p>・枠が2行になっていることに着目するとよいことをアドバイスされ、数えている。 <input type="checkbox"/></p>	<p>・枠が2行になっていることを利用すると考えやすいことに気が付いて数えている。 <input type="checkbox"/></p>
<p>まとめ 15分</p> <p>・割り算の式の表し方を知る。 『10枚のシールを2人で同じ数ずつ分けると1人分は5枚になります。これを式で表すと、<math>10 \div 2 = 5</math>となります。』</p> <p>・割り算の式を点字表記で書く <math>4 \div 2 = 2</math>について点字で表記する。</p> <p>・<math>6 \div 2</math>、<math>12 \div 2</math>について答えを出して点字で表記する。</p> <p>・次回は、同じ数ずつ3人や4人に分けることを知り学習の見通しをもつ。</p>	<p>○まとめを点字で表記したシートを渡し読み上げるよう指示する。</p> <p>○普通の文字の「<math>\div</math>」の触覚教材も用意し触って確認するようにする。</p> <p>○点字タイプライターを机上に用意するよう伝える。</p> <p>○台紙のシールを適宜触って考えるように促す。</p> <p>○学習した点字用紙や台紙は、ファイリングをするよう指示する。 <input type="checkbox"/></p>	<p><b>数量や図形についての知識・理解</b></p> <p>・割り算（等分除）の意味と点字表記を理解している。 <input type="checkbox"/></p> <p><b>数量や図形についての表現・処理</b></p> <p>・点字で正しく式を表記することができる。 <input type="checkbox"/></p>	

## 2 ろう学校

### (1) 障害に起因する学習課題

小・中学部における聴覚障害教育では、聴覚的情報（保有聴力を生かすための補聴器の装用、音声言語）や視覚的情報（手話、指文字、文字カード、絵カード、身振りなど）等、様々な手段を活用し、児童・生徒が着実に伝え合う力を身に付けることが課題である。

国語：聴覚を活用して得られる情報量が少ないため、日本語の習得に時間がかかったり、習得が困難だったりする場合がある。また、児童・生徒の多様化に対応するため、学年対応だけでなく、下学年適用の授業を行うなどの工夫も必要である。それらを踏まえて、個々の理解の度合いに応じて、以下の指導事例のように、補充的な学習や発展的な学習を効果的に取り入れていくことが有効であると考えた。

○ 単元名 「火星に生命をさぐる」（小学部6年：学年対応）

○ 評価規準及び補充的な学習・発展的な学習の内容

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
火星に関する事実や筆者の考えに対し、自分の意見をもっている。	友達の意見や考えを理解し、様々なコミュニケーション手段を使って話し合っている。	火星に関する事実や筆者の考え、自分や友達の考えなどを新聞にまとめている。	事実を読み取り、的確に文章の要旨を理解して読んでいる。	文中に出てきた語句を理解し、その意味を手話等で説明したり、日常生活で使用したりしている。

**補充 i** 教師の援助を受けながら、インターネットなどで、火星に対する地球からの探査について、調べ、まとめる。

**発展 i** インターネット、科学雑誌、宇宙図鑑等を使い、自ら調べ学習を行い、火星についての関心を深める。教材：科学雑誌、宇宙図鑑

**補充 ii** 説明文の要旨を十分に理解できていない場合は、アンダーライン等を引くよう指示を受けて、筆者の考えを確認し、それに対する、自分の意見をまとめる。

**発展 ii** 説明文を読み、内容を理解した児童は、ワークシートを使い、内容を整理し、筆者の意見や自分の考えをまとめる。疑問点はグループ内で相談する。

**補充 ii** 以前学習したが未定着となっている単語や、新出語句の意味や用法について個別学習を行う。(単語カードを使って、繰り返し練習する。)  
**発展 ii** 本文中の語句を使って、例文作りをする。類義語や反対語について調べる。品詞によって色分けする。言葉を手話で表したり、言葉を使って作文したりする。



○ 単元名 「ガイアの知性」（中学部3年：中学校2学年の教材を使用する下学年適用）

○ 補充的な学習の内容

**補充 ii** 文章読解における言語指導。文章理解を深めるため重要なキーワードを抽出し、その言葉の意味の理解を十分に深められるように、図や漫画で説明したり、類似語との意味や使い方の違い等を調べたりして、言葉のカードをつくる。

算数：聴覚に障害がある場合、言語や思考力の発達の関係から、抽象的な概念の形成に困難を伴うことが多い。そのため、体験的な活動を積極的に取り入れ、論理的な思考力、図表等の表現力、数学的な問題解決能力を付けることが課題である。また、下学年適用の児童・生徒については、以下の指導事例のように、現在学習している下学年の内容の確実な定着を図るとともに、積極的に促進的な学習を取り入れて当該学年の学習内容に近づけていくことが有効であると考えた。

- 単元名 「表とグラフ」(小学部6年:小学校3学年の教材を使用する下学年適用)
- 評価規準及び補充的な学習・促進的な学習の内容

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
目的をもって資料を集め、それを分類整理して、集団の特徴や傾向を考察しようとする。	資料を整理する観点を決め、それに応じた、より簡潔・明瞭な分類・整理の方法を考案することができる。	表やグラフを読んだり書いたりできる。また、目的に応じてこれらを使い分けることができる。	表やグラフのよみ方やかき方が分かる。また、「正」の字を書きながら資料の整理のしかたが分かる。
<b>促進 i</b> 交通量調査の目的を理解し、校外で実際に交通量調査を行い、表やグラフにまとめて考察する。	<b>補充 i</b> 資料の分類項目を3つ程度にし、サンプル数も10以下の課題を設定する。	<b>促進 ii</b> 棒グラフを扱った後に、小学校4学年で扱う折れ線グラフを学習する。一次元表を扱った後に、二次元表を学習する。	<b>促進 ii</b> 4学年以上で学習する大きな数や概数の加減を用いて表やグラフをつくる。

以上の指導事例をもとにして、さらに、国語の研究授業を行い、単元の始めに学習に向かう土台作りを行う〈補充iv〉とともに、毎時の指導で個々の理解度に応じた補充的な学習と発展的な学習〈補充i、ii〉〈発展i、ii〉を取り入れて、その有効性の検証を行った。

## (2) 研究授業による検証

### ろう学校 小学部6年 国語(学年対応)

#### 1 単元名 物語文、伝記「作品と出会う、作者と出会う」6年上(15時間)

#### 2 単元設定の理由

在籍する6年生8名について、国語科では、学習進度や言語力の差を考慮し、三つのグループに分け、指導を行っている。本グループは、当該学年の内容を学習しているグループであり、学習意欲が高く、活発に発言する様子が見られる。しかし、個々の読解力や表現力には開きがあるため、視覚教材等も活用しながら、きめ細かく丁寧に学習を積み重ねていく必要がある。また、単元の最終目標である読書活動への関心を高めていきたい。

本単元では、「作品と出会う、作者と出会う」ことを目的に、宮沢賢治の物語「やまなし」と宮沢賢治の伝記「イーハトーヴの夢」の二作品が、読むための教材として取り上げられている。掲載順では「やまなし」からであるが、「やまなし」は宮沢賢治の独特な表現や比喻表現が駆使された、象徴的で味わい深い作品である。言葉の響きなどを味わうことなど、ろう学校の児童にとって、最初から作品や作者に興味をもつことはややむずかしいと考え、まずは伝記「イーハトーヴの夢」の中から宮沢賢治にまつわるエピソードや賢治の理想郷「イーハトーヴ」で展開される奇想天外な世界観が描かれる作品の数々、ユニークな主人公達を中心に上げ、興味をもたせることを考えた。この伝記をきっかけに他の作家や作品を調べる活動を行い、その成果を「展示コーナー」に展示し、発表する。また、本に興味をもたせ、読書活動につながるきっかけにしたい。後半は「やまなし」を取り上げ、賢治の人間性と作品の関連性を考えながら、児童が作品を深く味わいながら読むことができるようにしたい。

## 補充的な学習と発展的な学習の必要性

聴覚に障害のある児童は学年が上がるにつれ、日常生活で使う言葉のみでは、国語で学習する言葉を理解することが困難になる傾向がある。本単元のように賢治の生き方や考え方が当時の時代背景と深くかかわるような文章を読解するためには、補足的な知識や文章を理解するために最低限必要な言葉を事前に押さえておく必要がある。そのため、賢治が生きた時代や理想を知り、作品のもつ発想やおもしろさを共有するための土台となる知識や語いの補充的な学習を適宜行っていく。また、児童の興味・関心に応じ、関連する作品や詩も発展的な学習として積極的に取り上げ、読書活動につなげるようにしたい。

### 3 単元の目標

- 宮沢賢治に関するエピソードやユニークな作品を知る。
- さまざまな作家とその作品に関心を持ち、読書への意欲をもつ。
- 「作家と作品」展示コーナーの展示物を作成したり、児童間で紹介し合いながら作家や作品の魅力を伝え合う。

### 4 児童の実態

部分は聴覚に障害のある児童・生徒に多く見られる課題

児童	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
A 小学部6年 感音性難聴	発想が豊かで自分の考えや思ったことを積極的に発言する。	教師、友達の説明や受け答えは意欲的である。自分の意見や考えをまとめて話すことが課題である。	<u>簡潔にまとめて書くことに時間がかかる。</u> 書きたいことを中心に据えて書くことを練習している。	<u>短い文であれば意欲をもって読み、内容を理解することができる。</u>	話し言葉は比較的明瞭である。 <u>話す内容や言葉をよく自分で整理して書いたり話したりすることに取り組んでいる。</u>
B 小学部6年 感音性難聴	物語や説明文の内容に関する知識欲が旺盛である。	自分の考えを積極的に発言する。周りの友達を意識して、話すことが課題である。	<u>作文等については、短い文章であれば表現したいことを書くことができる。</u>	本が好きで読解力がある。要点や指示語の指す箇所などの確に把握できる。	本や新聞をよく読んでいたので慣用語や日常使わない言葉も良く理解できている。
C 小学部6年 感音性難聴	物語が好きで登場人物になりきって表現したり、主人公の気持ちになって考えることができる。	相手を意識しながら話すことができる。発言も多い。 <u>文法的に正しく話すことが課題である。</u>	積極的に意欲をもって書く。話し言葉で書くことが多く、 <u>書き言葉の習得が課題である。</u>	おおまかに内容を読み取ることができる。 <u>主旨や要点を正確につかむことが課題である。</u>	学んだ言葉や本で知った言葉を積極的に使おうとする。

## 個々の児童に応じた補充的な学習と発展的な学習の方法・支援

聴覚に障害のある児童の国語指導においては、正確に読み解く力、書き表すこと力を育てることが大きな課題となる。そのため、児童が作品に興味をもち、賢治の生きた当時の時代背景、育った環境を読み取りながら、正しい日本語を使い、多様なコミュニケーション手段を用いてまとめたり、話し合ったりする活動を設定する。そのねらいを達成するために、文章に合わせて様々な資料や写真など、視覚的な情報を活用し、知識や語いの補充的な学習を行ったり、展開の最後に、個々の理解の度合いに応じた学習を行う時間を設け、ワークシート等で目標の達成度を確認し、児童の理解力や表現力に応じて補充的な内容や発展的な内容を扱ったりしながら、言語力の伸長と定着を図ることが大切である。

## 5 単元の観点別評価規準

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
様々な作家とその作品に興味をもち、すすんで読書しようとしている。	自分の考えをもち、多様なコミュニケーション（手話、身振り等）を使って相手に分かるように話したり、友達と意見の交換をしたりしている。	「作家と作品コーナー」に展示する作品を、相手に分かるように、正しい文法を使い、文章にまとめている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品の情景を叙述に即して手話等で表現し、想像しながら読んでいる。</li> <li>書かれた内容について自分の考えをもちながら読んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出漢字を正しく読み書きができる。</li> <li>単元を通して理解した言葉を的確に説明したり手話で表現したりしている。</li> </ul>

## 観点別評価規準を基にした補充的な学習と発展的な学習の内容

観点別評価規準を基に、より学習を深められる児童には、発展的な学習内容を用意しておく。具体的には、発展的な読み書きのワークシートや、自主的な読書活動につなげていけるような関連の本や調べ学習があげられる。また、補充的な学習が必要な児童には、個々の実態やこれまでの学習の経過を考慮しながら、ワークシート等を用いて既習の内容を再確認したり、関連する知識や言葉を取り上げたりして、ねらいとする力の定着を図る。

## 6 指導と評価の計画

次	時	学習活動	支援の方法	評価規準と評価の方法
1	1	・宮沢賢治について、資料を基に、知っていることを交えて話し合う。	○読解していくための予備知識としての写真等の視覚教材や関連する情報を用意しておく。	宮沢賢治について興味・関心をもち、調べたこと等を積極的に発言している。 (国語への関心・意欲・態度) 発言の様子や態度の観察により評価
	2	<p>補充的な学習〈補充iv〉</p> <p>賢治の作品（絵本、文庫本）、賢治の生きた時代の年表を資料として用意し、児童の発言から理解の度合いや知識を把握し、それに応じて語いや予備知識を指導する。</p> <p>・新出漢字、難解語句、時代背景などの予備知識を学習する。 ・新出漢字を使った熟語を用いた例文づくり。</p>	○辞書で調べるようアドバイスしたり、相手に分かりやすく伝えるために指文字で助詞を入れる指導を行ったりする。	新出漢字を正しく書いている  (言語についての知識・理解・技能) 書き取りノートから評価
		補充的な学習〈補充iii〉	新出漢字の書き取りを家庭学習として練習する。	

	・視覚教材等から得た、当時の事柄や時代背景をまとめ、お互いに話し合う。		相手を意識して話し、話者に注目して聞いている。(話す・聞く能力) 発言の様子により評価
3 く 5	・宮沢賢治についてインターネット等で調べ、ワークシートにまとめる。	○知ったことや本時の習った内容、語句をワークシートを用い、確認をする。	調べた言葉を用い、文を書いたり、手話で表したりしている。 (言語についての知識・理解・技能) ワークシート、発言から評価
<p>補充的な学習〈補充ⅰ〉 ワークシートをまとめることが困難な児童は、宮沢賢治の作品(絵本)を用意し、「補充的なワークシート」に取り組む。</p>			
<p>発展的な学習〈発展ⅱ〉 ワークシートに児童が記載した内容から、おおむね満足と判断できる児童は、賢治のエピソードをまとめた資料を用意し、賢治の人物についてまとめる「発展的なワークシート」に取り組む。</p>			
2	6 7	「イーハトーブの夢」 ・第一段落から第五段落まで読み、宮沢賢治の生まれた頃から子ども時代の様子や、当時の時代背景について知る。 ・賢治の他の作品に触れ、理解を深める。 ・第六段落から第十段落までを読み、賢治の農学校教師時代の様子を知る。	○時代背景について、当時の様子や災害などに関する資料等を交えていく。 ○相手に分かりやすく伝えるための正しい手話を使うよう指導する。 ○音読の様子や手話表現を確認し、内容や意味をきちんと理解しているか確認しながら指導する。
			賢治について興味や関心をもち、感じたことや疑問に思ったことを発言している。 (国語への関心・意欲・態度) 発言の様子や態度で評価 相手を意識して話したり、話者に注目している。(話す・聞く能力) 互いの良い点を記入する相互評価カード 資料などを参考にしながら、イメージして読んでいる。(読む能力) 音読の様子や態度により評価
<p>補充的な学習〈補充ⅱ〉 学習のポイントを確認し、理解が進んでいない児童には、キーワードを示したワークシートを用い、再確認する。</p>			
<p>発展的な学習〈発展ⅰ〉 文章中紹介された詩や作品から、児童の興味・関心に応じて作品をピックアップし、課題図書として提示する。読んだ本は読書カードに記録していくよう、指示する。</p>			
8 9	・第十一から十六段落を読み、賢治の作品の発想のおもしろさを知る。 ・成人聴覚障害者による「やまなし」の手話の読み聞かせを鑑賞する。 ・ワークシートにそれぞれの作品の主人公や舞台をまとめる。 ・第十一から十六段落まで出てきた主人公や舞台を絵にしてワークシートの材料とする。	○読解していくための予備知識となる写真等の視覚教材を提示する。	学習した言葉をよく理解している。 (読む能力) 児童が描いた作品の主人公や舞台の挿絵の内容で評価。
<p>補充的な学習〈補充ⅱ〉 絵を描くことが困難な児童には、教科書に紹介されている作品の舞台の写真や絵本を提示して、絵を描けるようにする。</p>			
<p>発展的な学習〈発展ⅱ〉 児童の絵から、さらに教科書に紹介されている以外の作品についての資料を示し、その舞台や内容について調べるよう働きかける。</p>			
10 本 時	・第七段落を読み、イーハトーブのパノラマ地図を作る。 ・ワークシートにまとめる。	○児童のユニークな発想をできるだけ取り上げるようにする。	これまで学習した賢治の作品を参考にしながら積極的にパノラマ地図作りに参加している。(国語への関心・意欲・態度) 発言の態度・内容から評価
15	<p>発展的な学習〈発展ⅰ〉 図書室を活用し、賢治の作品で読んでみたい本を各自が探し、読書活動を行う。7時間目からの継続で、すでに読み終わっている児童は、感想文に取り組む。読んだ本は、題名等を読書カードに記録していく。感想文は全員のを廊下に掲示し、優秀なものはコンクールする応募にすることを伝える。</p>		

## 7 本時の指導（10/15時間）

### (1) 本時のねらい

- イーハトーヴで展開されるユニークな物語の数々や賢治の発想に興味・関心をもつ。
- 教師の説明や友達の意見を踏まえながら、自分の考えを積極的に発言する。
- 教科書の挿絵や自分達でイメージして描いた作品を一つのパノラマ地図にまとめる。

### (2) 個別目標

- A児 ・イーハトーヴのパノラマ地図をまとめ、作品や作者に興味をもつ。  
・学習した内容を相手に伝わる文章でワークシートにまとめる。
- B児 ・賢治の発想や作品に注目し、自分の感想や意見を聞き手に分かりやすく発表する。  
・簡潔且つ正確に学習した内容をワークシートにまとめる。
- C児 ・賢治のユニークな発想や作品に興味をもち、気付いたことや感想を積極的に発言する。  
・本文から語句を抜き出し、書き言葉を意識しながら、ワークシートにまとめる。

### (3) 本時の展開（別紙P. 17）

#### (3) まとめ

ろう学校では、どの単元、どの科目においても、そこで出てくる語句やその用法を確実に定着させるための指導が必要である。「日常生活に反映できるような言語の定着」、「抽象的言語を理解し日記や作文などで活用できるようにする」、「新聞や文学作品などを自分で読めるようにする」など、児童・生徒によって目標は異なる。学習グループ内でも、児童・生徒の実態が様々であるため、一斉授業のうち、課題を終えてしまい待ち時間ができてしまう児童・生徒や、逆に授業の流れについていけない児童・生徒が出てきてしまいがちである。そのような場合は、個別に対応できるように、的確に学習状況を評価し、理解度に応じて補充的、発展的内容のワークシートや調べ学習の課題、ドリル学習などを行う必要がある。

また、文章の内容を読解する際にも、その内容について予備知識のある児童・生徒とそうでない児童・生徒がグループ内に混在している。そのような場合には、補充的な学習として教科書中の写真などだけでは十分説明できない部分についての資料を提示したり、発展的な学習として図書館を活用して自ら資料を調べる学習を設定したり、する必要がある。

課題別に学習した内容については、個人の習得にとどまらず、一斉授業時の際に、発表し合ったり、意見交換をしたり、まとめの新聞を作成するなど複数で活動する場を設けるなど、学習内容を共有し、相互評価できるような環境をつくることで、自分の考えをまとめて相手に伝える力を高めることができる。

また、学習が遅れることが予想される児童・生徒に、補充的な学習として個別指導を行い、一斉授業にスムーズに参加させることも重要である。授業中に発言しやすくなるなど安心して授業に臨むことができ、児童・生徒の自信にもつながる。

さらに、下学年適用の場合には、他の単元で以前に学んだものを活用したり、生活年齢を考慮した内容にしたりするなど促進的な学習を工夫したい。また、学習内容が実生活に効率的に活かせるよう学習内容を精選することも必要である。

このように、個々の実態に応じて、児童・生徒同士のコミュニケーションを大切にしたい。授業展開が望まれる。また、学習の定着のためのドリル等を用いた反復学習も必要である。



(3) 本時の展開

(教師の評価 よくできた：A できた：B 工夫を要する：C)

(児童評価： 十分満足：A おおむね満足：B 努力を要する：C)

	学習内容	教師の支援	個別の学習目標 - 評価		
			A児	B児	C児
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「イーハトーヴ」は賢治が岩手県から想像した理想郷で、賢治の様々な物語の舞台になっていることを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イーハトーヴを舞台とした「風の又三郎」「グスコーブドリの伝記」「セロ弾きのゴーシュ」の絵カードを示す。</li> </ul>	<b>国語への関心・意欲・態度</b> <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師に視線を向け、話や問いかけに対して答えようとする。</li> </ul> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第十七段落を読み、内容を理解する。</li> <li>・「イーハトーヴ」で起きる様々な物語の舞台をパノラマ地図にまとめる。</li> <li>・ワークシートにまとめる。  <b>&lt;補充 i&gt;</b> →  <b>&lt;発展 ii&gt;</b> →</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「そんな数々の物語」から賢治の物語を思い出させる。</li> <li>○音読する際、児童の様子を把握し、必要に応じて音量や正しい手話を指導する。</li> <li>○児童の発表の仕方や要旨をまとめることについてアドバイスしたり、相手にわかりやすく伝えるための指文字での助詞の使い方等を指導したりする。</li> <li>○難語句や意味が分かりにくい部分は視覚教材や具体物を取り入れながら、理解を促す。</li> <li>○教科書の絵や児童の作品を取り上げながら賢治の発想のユニークさや「イーハトーヴ」のパノラマ地図に興味をもたせる。</li> <li>○ワークシートの配布し、内容や語句の理解の程度を確認し、個々に応じた支援や課題を与える。</li> </ul>	<b>国語への関心・意欲・態度</b> <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「イーハトーヴのパノラマ地図」作りに興味をもち、積極的に発言する。</li> </ul> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			<b>読む能力</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指示棒の指された箇所を適当な音量で読む。</li> </ul> <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意味をつかみ、指された箇所を適当な音量で読む。</li> </ul> <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意味をつかみ、できるところは手話をつけて読む。</li> </ul> <input type="checkbox"/>
			<b>話す・聞く能力</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞くときは話者に視線を向けることができる。</li> <li>・質問の内容を理解し、自分の考えを簡潔にまとめて話そうとする。</li> </ul> <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい日本語を使い、相手を意識して手話をつけながら自分の考えを発言することができる。</li> </ul> <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を意識し、文法に気をつけながら自分の考えを分かりやすく発言することができる。</li> </ul> <input type="checkbox"/>
			<b>言語についての知識・理解・技能</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やりとりや視覚教材を参考に内容を大まかに理解することができる。</li> <li>・ワークシートの問いを理解し、的確な答えを書き込むことができる。</li> </ul> <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章から内容を理解することができる。</li> <li>・ワークシートの問いを理解し、正確に書き込むことができる。</li> </ul> <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やりとりや視覚教材を参考に内容を理解することができる。</li> <li>・ワークシートの問いを理解し、正確に書き込むことができる。</li> </ul> <input type="checkbox"/>
	<b>書く能力</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文から語句を抜き出し、ほぼ正しく書き込むことができる。</li> </ul> <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問われている箇所を簡潔にまとめて書くことができる。</li> </ul> <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文から語句を抜き出し、書き言葉で書くことができる。</li> </ul> <input type="checkbox"/>		
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の学習内容を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○次回の「やまなし」の登場人物の会話のさわりを聞かせ、場面に期待感をもたせる。</li> </ul> <input type="checkbox"/>	<b>国語への関心・意欲・態度</b> <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者に視線を向け、次の場面を思い浮かべながら話や問いかけに対して答える。</li> </ul> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

### 3 肢体不自由養護学校

#### (1) 障害に起因する学習課題

肢体不自由教育では、児童・生徒の身体的な動きの状態や生活経験の程度等を考慮して、指導内容を適切に精選するとともに、重点の置き方や指導の順序を工夫することが課題である。

より豊かな社会生活を営むためには、主体的に判断し行動できるようになるための力や他者とのコミュニケーション力をつけることが重点課題となる。身体の動きやコミュニケーション等に関する内容の指導に当たっては、各教科指導の中でも、自立活動における指導との密接な関連を保つようにすることも課題である。

具体的な学習場面の中では、

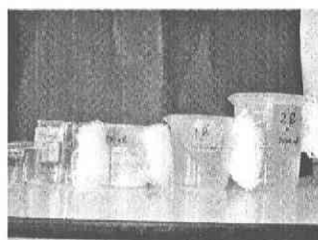
ア 日常的な経験不足を補う学習を大切にする。…幼少期に病院で過ごしたり、家庭内で過ごしたりすることが多いため、社会的な生活経験が少なく、受け身の生活になりがちである。そのため、実際に具体物を操作する場面を多く取り入れ、理解を深めていく必要がある。また、集団の中で社会性を育てていくことが課題である。

イ 学習意欲を向上させる。…筆記が困難な児童・生徒には、口述筆記やパソコンなどを利用したり、大きいマス目の原稿用紙の使用や計算問題の解答欄を大きくしたり、握りやすいペンのような自助具を工夫するなど、個々の児童・生徒の実態に応じて配慮し、動作に時間がかかっても、児童・生徒の意欲が持続できるようにすることが課題である。言語が不明瞭な児童・生徒には、早くから文字盤やトーキングエイドの活用など自立活動の時間と連動して指導を行うことが課題である。

ウ 確かな基礎学力を向上させる。…縦割りで他学年が混在する課題別学習グループを編成しているが、通常の小学校より転入学する児童・生徒が多いため、学習進度や教科による学力の幅や偏りが見られ、確かな学力を身に付けるためのグループ編成に工夫を要する。経験不足を補ったり、学習意欲を向上させたりするような、補充的な学習、発展的な学習を取り入れて児童・生徒が目標を達成できるようにすることが課題である。

算数：上記のア～ウの課題を解決するために、下学年適用のグループの指導において、分かりやすい手だてで十分に実体験を積み、積極的に当該学年の学習内容に近づける学習を取り入れた、次のような指導が有効であると考えた。

- 単元名 「水かさ」（小学部5年：小学部3学年の教材を使用する下学年適用）
- 評価規準及び補充的・促進的な学習の内容



**補充 i** 実体験を十分行うことで、概念の定着を図る。(目盛りを大きく、取っ手を太くしたカップを用いる。)

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現処理	数量や図形についての知識・理解
かさの単位に関心をもち、実際に自らかさを量って調べようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に量りながらかさの考え方を知り、多い・少ないだけでなく、定量的に量ることのよさに気付いている。</li> <li>・分数概念の導入として何を1(基準)とするか考えている。</li> </ul>	加減乗除を利用して、かさの計算、文章題を求めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「かさ」の単位の表現方法を理解している。</li> <li>・1l(リットル) = 1000ml(ミリリットル)、1l(リットル) = 10dl(デシリットル)などを理解している。</li> </ul>

**促進 ii** 紙の大きさの対比で量を平面に表現し、1の基準の理解を促す。(割合の基礎)

国語：経験不足からくるつまづきを補い、交流等を通して興味・関心の幅を広げる学習を取り入れた、次のような指導が有効であると考えた。

**補充 ii** 具体物を提示しながら季語集めをする。

- 単元名 「俳句の世界」 (中学部 3 年：学年対応)
- 評価規準及び補充的な学習の内容・発展的な学習の内容

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
俳句のリズムに親しみ、楽しんで俳句を創作している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の俳句を聞いて感想を伝えている。</li> <li>・ 友達に分かりやすく発表している。</li> </ul>	考えた俳句を短冊に書いたり、パソコンで文章表現したりしている。	俳句のリズムをつかみ、例示された句を理解しながら音読している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言葉の意味を辞書で調べて理解している。</li> <li>・ 季語や切れ字について理解している。</li> </ul>

**発展 i** 地域の中学校との交流会で俳句会を行う。  
(総合的な学習の時間)



**発展 i** 自分が住みやすい社会についてミニ討論会を企画し、行う。



- 単元名 「『心のバリアフリー』 (乙武洋匡) 意見文を書こう」 (中学部 2 年：学年対応)
- 評価規準及び補充的な学習の内容・発展的な学習の内容

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
集中して参加し、意欲的に自分の意見や疑問に思うこと等を伝えようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作者の考えに対して感じたことやその理由を具体的に発表している。</li> <li>・ 友達の考えを聞いて自分の意見を整理している。</li> <li>・ 自分の立場で考え、問題を整理して論理的に説明している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作者の考えをもとに、自分の考えをまとめ文章表現している。</li> <li>・ 短冊に書いたり、パソコンで文章表現したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書かれている事柄を意識し、理解しながら音読している。</li> <li>・ 作者の考えと具体的な事例を区別して読み取っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言葉の意味を辞書で調べて理解している。</li> <li>・ 調べた言葉を使って短文を作ることができている。</li> </ul>

**補充 ii** 校外学習を実施し、総合的な学習の時間「交通バリアフリーについて調べよう」の単元と関連させ、駅を利用して、経験不足を補う。

**発展 i** 「五体不満足」全編を読んで作者の考えをより理解する。

## (2) まとめ

補充的な学習として、操作しやすい教材・教具を工夫し、自ら実験・計測する体験をもたせたり、様々な実地体験を増やすために校外学習を実施したりすることを通して、学習内容の確実な定着を図ることが大切である。また、発展的な学習として情報機器を活用した調べ学習を行ったり、話し合い活動を取り入れたりして、考える力、コミュニケーションの力を伸ばすことも大切である。身体の動きの困難さから、一つ一つの動作に時間がかかる等、学習時間が制限されることから、学習内容を精選し、家庭学習と連携した効果的な指導を行ったり、総合的な学習の時間との関連を図ったりすることが有効である。

#### 4 情緒障害・言語障害通級指導学級

##### (1) 障害に起因する学習課題

通級指導学級は、障害に応じた特別な指導（いわゆる自立活動と各教科の補充指導）を行っている。情緒障害通級指導学級には、注意集中の困難さ、行動のコントロールの難しさ、社会性のつまずき等の特性がある、LD、ADHD、高機能自閉症等、軽度の発達障害の児童が通級している。そのため、基本的な学習態勢づくり、ソーシャルスキルの獲得、個々の認知特性に応じた学習の仕方を身に付けることなどの学習課題がある。

言語障害通級指導学級には、構音障害、吃音、言語発達遅滞を主たる障害とした児童が通級している。そのため、構音の改善、言語の流ちょう性の改善、言語発達の促進などの学習課題がある。

それぞれの教育的ニーズに応じて、専門性を生かした指導を行っているが、自信や意欲の回復、ソーシャルスキルの獲得などが共通した課題として存在する。

また、多くの児童・生徒が学習上の困難を抱えている。限られた通級指導の時間の中では、心身の障害の状態を改善・克服することが通級指導の主たる目的となる。しかし、生活の大半を過ごす通常の学級において、毎日の授業に意欲的に参加していくため、必要に応じて教科の補充指導を行うことも大切である。ここでは、教科の補充指導を在籍学級の学習内容の理解を助ける広義の補充的な学習としてとらえ、指導の事例を紹介する。

国語の補充的な学習（情緒障害通級指導学級）：相手の気持ちの読みとりの難しさの改善に焦点を当てた個別学習などの教科の補充的な学習が有効であると考えた。

○ 在籍校で学習する単元名 物語文「三年とうげ」（小学校3年）

○ 評価規準及び補充的な学習の内容

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
見通しをもつて粘り強く課題に取り組んでいる。	・考えを進んで話している。 ・相手の話を最後まで聞いている。	字の形や大きさに気をつけて丁寧に書いている。	人物の気持ちを思い浮かべながら読んでいる。	気持ちや感情を表す言葉を理解している。

**補充 ii** 課題解決の見通しをもつ困難さを補うため手順を示す。

- ① 紙芝居を読む。
- ② おじいさんが転んだ場面を演じる。
- ③ プリント3をする。

**補充 V** 視覚的な情報の受け取りのよさ（視覚認知優位）を活かし、紙芝居や絵本で物語の大筋をつかむ。

**補充 ii** 相手の気持ちの読みとりの困難さに応じて、登場人物の気持ちを言葉のリストから選んで絵の吹き出しに書き込み、語いを増やす。



算数の補充的な学習（情緒障害通級指導学級）：学習への抵抗感を軽減し、意欲や集中の持続をねらった個別学習などの教科の補充的な学習が有効であると考えた。

- 在籍校で学習する単元名 「分数のわり算」（小学校6年）
- 評価規準及び補充的な学習の内容

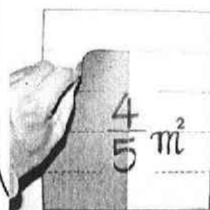
算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形について の表現・処理	数量や図形について の知識・理解
分数の乗除計算の仕方について、 <u>分数の性質や既習の計算と関連づけて考えよう</u> としている。	分数の性質を基にして、 <u>分数の乗除計算の仕方</u> を考えている。	分数の乗除計算ができています。	分数の乗除計算の意味やその計算の仕方が分かっている。

**補充 iii** 児童の心理的な負担を軽減したワークシートで反復練習を行う。

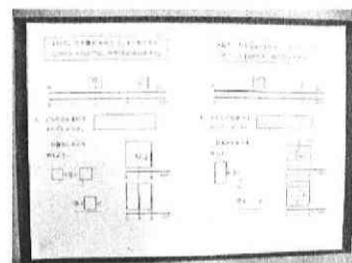
（例）

- ・簡単な数にする。
- ・紙面には必要な情報だけ載せる。
- ・書く困難を軽減するため書き込みを少なくする。

**補充 ii** 楽しく具体的な操作ができて、視覚にも訴えることで、学習意欲と集中力の持続を図る。



**補充 i** 既習の整数÷整数から始めて、それをヒントとして左に見ながら分数÷整数へ進むことで、不安感を取り除き、落ち着いて思考できるようにする。



国語の補充的な学習（言語障害通級指導学級）：在籍学級で取り組んでいる単元の語句について、個別指導を行い、書字や読字の負担軽減を図る補充的な学習が有効であると考えた。

- 書字読字障害における「ひらがな・カタカナの定着」（小学校3年）
- 補充的な学習の内容

**補充 iv** 教材（なぞなぞやスリーヒントクイズ）に取り組み、適切な語いを正しい音の順序で想起する力を高める。

**補充 iii** 50音表を用意し、書字における負担を軽減する。

**補充 ii** 提示する文を分ち書きや、児童に合わせた字の大きさにすることを通して、読字に対する負担を軽減する。

## (2) まとめ

通級指導学級では、一人一人の教育的ニーズに応じた指導の中で、教科の授業への自信と意欲を養うことで心理的な安定と集団適応へつなげていく指導も大切である。その場合、在籍学級の教科指導や評価との関連をもたせて指導していくことが重要である。

しかし、通級児童・生徒は、情緒障害や言語障害等の様々な困難がある。例えば、教科書教材を扱いながら、行動上の課題に焦点を当てて指導するといったことが実際の場面では求められる。「個別指導計画を作成し、行動上の課題や言語面での課題に焦点を当て、認知特性を踏まえて指導する。」「在籍校での授業参加を考慮し、在籍校の評価規準を生かして指導する。」という視点をバランスよくすることが大切である。

## V 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

本部会では、一人一人の児童・生徒が評価規準を達成し、確かな学力を身に付けていくための、補足的な学習と発展的な学習の指導方法等を次のように明らかにした。

#### (1) 単元の内容をかみくだいてスモールステップで行う学習〈補充 i〉の指導方法等として

ろう学校の国語の指導において、授業中に評価規準に照らして学習状況の到達度を評価し、理解の度合いが不十分な児童には、授業の最後に、ワークシートを用い、宮沢賢治独特の表現一つ一つを絵と対応させて理解を促す補足的な学習を行った。その結果、児童が作品を味わうために必要な語いや表現を理解することができた。

#### (2) 児童・生徒のつまずきの箇所に焦点を当てた学習〈補充 ii〉の指導方法等として

盲学校の算数の指導において、等分除と包含除の違いを小学部3学年の本単元で確実に身に付けておくことが大切である。しかし、除法は初めて出てくる単元であり、特に、等分除と包含除の違いの理解は、つまずきの箇所となりやすい。そこで、その違いの理解に焦点を当て、単元の指導計画の中に補足的な学習として設定し、乗法九九の「かけられる数」と「かける数」の違いと対応させる学習をしたことで、児童の理解の定着を図ることができた。

#### (3) 習熟のための反復学習〈補充 iii〉の指導方法等として

盲学校の算数の指導では、点字使用の児童・生徒は、筆算形式に替わり、珠算で計算することが一般的に取り入れられている。普通文字を使用する場合と同様に、珠算でも計算問題は、数多くの問題を継続的に繰り返し解くことで、早く正確に計算できるようになる。その習熟のために各時の始めの10分間を充てることで、児童の計算速度と正確さの向上が図られた。

#### (4) 単元に入る前の土台作りの学習〈補充 iv〉の指導方法等として

盲学校の算数の指導では、具体的な事物や事象・動作と、言葉を結びつけるために、単元の始めに、十分に操作的な活動を取り入れることが必要である。除法の学習の導入で、具体物を使って分ける活動を補足的な学習として行ったことで、その後の等分除、包含除の学習の際、同様の操作についての考え方を身に付けることができ、式の立て方の理解や文章題の学習がスムーズに進んだ。

ろう学校の国語の指導では、学習を進めるための最低限必要な語いや知識を得ることが必要である。単元の始めに、視覚教材や資料を活用して、補足的な知識、言葉を補足的に学習したことにより、児童は、作品の情景を共通にイメージできたり、筆者の趣旨を述べるに至った理由まで説明できたりするようになった。

#### (5) 得意な部分に着目した学習〈補充 v〉の指導方法等として

情緒障害通級指導学級の国語の補足的な学習の指導において、児童の認知特性（視覚認知優位）を生かして、教科書の物語を紙芝居として見せたことで、児童はあらすじを把握することができ、在籍学級での学習の理解につながった。

#### (6) 興味・関心の幅を広げる学習〈発展 i〉の指導方法等として

ろう学校の国語の指導において、文章の内容を把握し、場面や登場人物の心情を読み取ることができるようなレベルまで学習が進められた児童には、図書館を活用し、同じ筆者の別の作品を探して読んだり、感想文を書いたりする活動を行い、日常的な読書の習慣につなげることができた。

(7) レベルアップを図るための難易度の高い内容の学習〈発展 ii〉の指導方法等として

盲学校の算数の指導において、等分除、包含除の考え方や、珠算による計算法について十分に学習が進んだ児童に対しては、単元の最後に2位数、3位数の除法を発展的な学習として行った。まず、何十、何百のチャンク（数の固まり）のイメージがもてるような重さのある教材を用い、これまで学習した除法の方法を当てはめて具体的操作→立式という手順を踏んで学習を進めていったので、大きな数の除法に対しても理解が進み、幅広い応用が可能になるとともに、先に学習する内容への橋渡しになった。

ろう学校の国語の指導において、授業中に学習状況の到達度を評価し、理解の度合いが十分満足な児童には、授業の最後に、ワークシートを用い、宮沢賢治の物語が生まれた時代背景について、教科書や他の文献に記載されている内容から読み取る学習を行った。その結果、児童が思考力を働かせて必要な部分を抜き出し、想像を広げて自分の考えをまとめることができた。

(8) 下学年適用における興味・関心の幅を広げる学習〈促進 i〉の指導方法等として

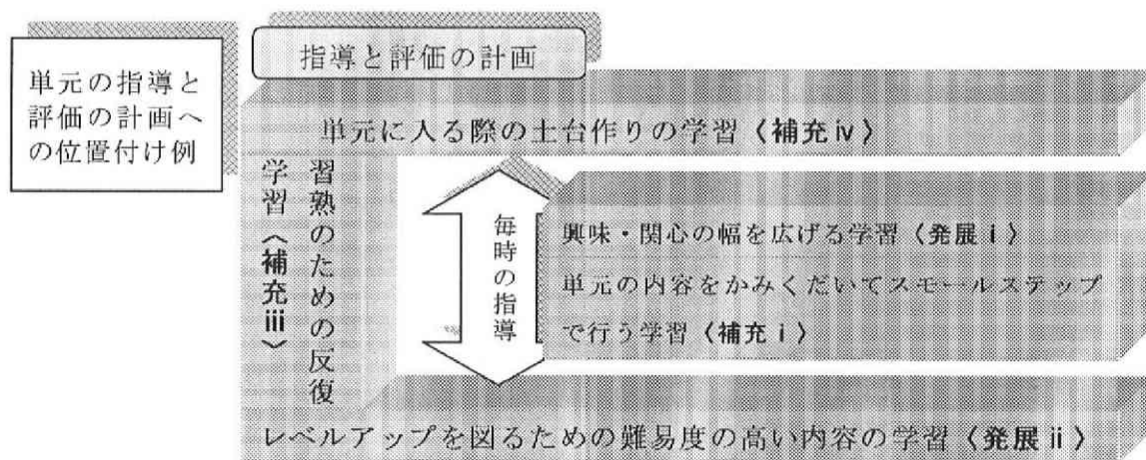
ろう学校の下学年適用のグループの算数「表とグラフ」の単元の指導において、資料を整理して集団の特徴や傾向をつかませるため、実際に交通量調査を行ったことで、児童の興味・関心を広げ、学習意欲を喚起することができた。

(9) 下学年適用における当該学年により近い内容の学習〈促進 ii〉の指導方法等として

肢体不自由養護学校の下学年適用のグループの算数「水かさ」の単元（3学年の内容）の指導において、5学年で学習する割合に関連づけて学習することにより、当該学年の内容に近い内容を身に付けることができた。

(10) 単元の指導と評価の計画への位置付け

補充的な学習、発展的な学習は、その内容に応じて、単元の指導と評価の計画に、適切に位置付けていくことで、より効果的なものとすることができた。



## 2 今後の課題

今後は、児童・生徒の確かな学力の育成を図るため、授業による検証を通して評価規準を改善し、より障害の特性に配慮したものに修正し、効果的に補充的な学習や発展的な学習を取り入れて活用していくことが必要である。その際は、児童・生徒の学習進度に応じた年間の単元の時数配分を適切に行っていく必要がある。